Sustainable Society Research (SSR)

2nd Year High School

2022 年 4 月 12 日 SSR(高 2)授業「アイディアを出すためのワーク①」

ワークシート 1-01

高校一年生で受講した「SSS(Sustainable Society Study)」からその学びを深めたいと希望する生徒たち 30 名がこの「SSR(Sustainable Society Research)」を受講しています。この WWL プログラムでは高校 1 年生「Sustainable Society Study」から 3 年生「Sustainable Society Design」まで一貫して、「まちづくり」をテーマとし、グローバル・イシューを取り上げ、問題解決へのアプローチを行います。またさまざまな科目の教員が担当するチームティーチングも大きな特徴であり、本年度の「SSR」を担当するのは、別の視点を持つ、社会科の帖佐教諭と理科の城村教諭です。今日は、第一回目の講座です。

【SSR で身に付けて欲しいこと/取り組むこと】

アカデミックスキル/課題解決のための方法論/グループワーク/答えが 1 つでない問いに向き合う姿勢/「社会」をつくる一員であることの自覚/まちづくり・SDGs・社会・経済についての基礎知識/フィールドワーク

それぞれの生徒が得意なこと、不得意なことがあると思います。その中で、グループワークや役割分担の中で、お互いに協力して課題に向き合っていきましょう。こうした取り組みを通じて社会に出てからも必要とされるスキルが身に付くと考えています。

【work1 お互いのことを知る】

● 1 人 3 分程度の自己紹介

グループワークが多くなるこの講座では、誰がどのような事に興味があり得意分野は何かなど、お互いを知ることはとても大切です。そこで、住んだことのある街、趣味やストレス解消法、将来の夢、なぜこの授業を選択したか、住んでみたいと思う街とその理由、最近関心を持っていることなどを共有しました。

ここでは教諭 2 人の自己紹介から抜粋し紹介します。

帖佐香織教諭（社会科）
最近グループワークで人と助け合うことの良さを実感中
日本以外では、台湾、パリに住んだ経験あり
趣味はバレエ、ダンスやオペラ鑑賞、都市巡り、アロマセラピー
ストレス解消は、１人でいることも好きだが、最近は気の合う人との会食やおしゃべりを楽しむことが息抜きに
住んでみたいのは、住みやすさや公平さ、人々が幸せそう、文化的な面などの理由から、コペンハーゲン、ロンドン、台北、パリ
最近の関心は、GAFA と呼ばれる、それぞれの分野で市場を席巻している大資本によるサブスクビジネスへの疑問

城村怜教諭（理科）
どちらかというと昔からグループワークより１人が得意
大阪の田舎で育ち、大学と大学院の９年間を東京で過ごす
東京では一流の文化的施設があることに大変魅力を感じ、美術館や博物館、科学館や図書館を巡ることを楽しむ
教員をしながらもう一度学ぶ楽しさを実感する日々
ストレス解消は、ドラマ、アニメ、マンガ、読書
教員になる時に学んだ「憲法」に興味があり、あえて言うならば「基本的人権」が守られている街に住みたい
物質的な要因で街に魅力を感じるというよりは、歴史や街の成り立ちの背景など目に見えないものに惹かれる

生徒たちの自己紹介から
住んだことのある街、国はどこですか？

シンガポール、台北、プノンペン、クリチバ、メルボルン、フランクフルト、クワラルンプール、天津、大連、北海道、埼玉、西宮、静岡、奈良、国だとアメリカ、中国、ニュージーランド、南アフリカ、ジンバブエ、内モンゴルなど

趣味、好きなことは何ですか？

庭いじり、音楽、カラオケ、ドラマ、ダンス、読書、Netflix、YouTube、空の写真、サッカー、バスケ観戦、走る、自転車、料理、長風呂、日記、国内外株、食べること、ゴルフ、テニス、ゲーム、ウサギ、刺繍、睡眠、家庭菜園など

将来住んでみたい街、国はどこですか？

北欧、カナダ、白夜のある地域、ニューヨーク、シアトル、オーストリアウィーン、ハワイ、韓国、愛知県、北海道、東京、鹿児島など

この講座を選択した理由を教えてください。

苦手なプレゼンを克服したい、SDGs 関連の仕事に興味がある、オープンエンドな問題について話し合いたい、高１（SSS）が面白かった、SDGs に意識の高い国から帰国した、社会に対する視野を広げたい、皆でアイディア出すことが好き、環境問題に興味がある、まちづくりに携わってみたいなど

将来の夢は何ですか？

海外での仕事、貿易系の仕事、自分の主張がはっきり持てる人に、自分で事業をしたい、人とかかわる仕事、社会に貢献したい、結婚して犬が飼いたい、投資ファンドをしたい、複数の語学を身に付けたい（独英中)、目標を見つけたいなど

住んだことのある街、国からも、多様なバックグランドを持つ生徒たちがこの講座にも集まっていることがわかります。興味も関心も様々、しかし講座の選択理由では、昨年の導入部であった SSS 講座が面白かった、好きだった、興味を持ったという生徒がほとんどで同じ関心のもとに集まっていることもわかりました。まちづくりに触れて、自身が住みたいと感じる街については、自然豊かなところと、またはなんでもある都会と大きく２つに意見が分かれました。将来については、まだ漠然と考えている生徒が多く、この講座でも目標を探す何かのヒントを見つけたいという気持ちも伝わってきました。

【work2 アイディアを出すためのワーク①】
皆さんはどのようなプロセス、方法論で問題を解決したり、そのためのアイディアを考えますか？

●エクスカーション
アイディアを出すためには、おもに「分析モード」と「発想モード」があります。今日は「発想モード」を使って、ある問題にグループで取り組んでみます。
<例題>新しい筆記具を「エクスカーション」という手法を使って考えてみましょう。

エクスカーション
1　テーマを決める
2　テーマとは無関係なもので、カテゴリーを決めてリストを作る
3　リストのそれぞれの項目について、特徴や印象を思い浮かべる
そこからアイディアを考えてみる←頭を柔らかく！

生徒たちの選んだカテゴリーの例

先生たち、動物、果物、国、花、音楽、魚、趣味、鳥、などなど

思いもつかないカテゴリーもあり、ここからどのような発想が広がっていき、最終的にどのような筆記具のアイディアが生まれるのか楽しみです。課題はグループのメンバーでアドバイスをし合いながら、個人で仕上げます。

2022 年 4 月 19 日 SSR(高 2)授業「アイディアを出すためのワーク/エクスカーション」

資料：ワークシート 1-2、課題シート「エクスカーションのワーク 2」

前回の講座での課題は、エクスカーションの手法を使いそれぞれが考えた新しい文房具やその発想のプロセスを共有し、グループで話し合いを進めることでした。今日は、話し合いを進め、最も優れていると思われるアイディアを見つけたいと思います。

【work 2　アイディアを出すためのワーク②】

●グループでアイディアを共有、話し合い

●アイディアに至るまでのエクスカーションを再検討し、ブラッシュアップ（前回学んだエクスカーションの手法を用いて発想されたもの）

●グループごとに話し合い最も優れていると考えたアイディアとその元となったカテゴリーのホワイトボードへの書き出し

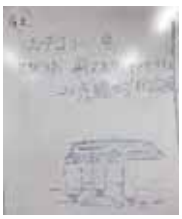
●グループごとにアイディア、採用の理由を詳しくプレゼンテーション

グループ 1

カテゴリー：魚

海も川も二刀流

⇒紙とタブレットへの両方に対応するタッチペン



グループ 2

カテゴリー：魚（トビウオ）

泳ぎ方から点線、いろいろな幅

⇒点線が引ける定規、熱くならない素材

グループ 3

カテゴリー：趣味

カメラ（虹）、虹（波）、海外旅行（飛行機、言語）、ヨット（風）

⇒ 4 機能（365 日カラー、筆圧移らない、左右の行間違う、めくれにくい）ノート

グループ４
カテゴリー：音楽＋食べ物
Chill（落着き、まったり、自由）、Honey Tea（色の多様性）
ソフトでしっかりと押せるスタンプ

グループ５
カテゴリー：鳥
フクロウ（夜行性、首が回る）
暗い場所でも見える文字、反転して他人と共有可能なペン

グループ６
カテゴリー：国
アメリカ（強い）、イタリア（体温計発祥）、ドイツ（東西）、
フランス（原子力発電）、日本（刀）
多機能ペン（体温計機能など）暗い場所で見える文字、反転して共有可能なペン

各グループが、思い思いのカテゴリーを考え、そのカテゴリーに当てはまる項目を自由に発想することで、思いがけないアイディアを生み出すことができました。問題解決のためには様々な手法が用いられます。大きく分けると推論を積み重ねるやり方そして発想を展開させるやり方になりますが、今回はその後者、発想モードで問題解決に挑戦しています。自由な発想、ひらめきを加速させる感覚を感じてもらいたいと考えました。ただし、思い付きでアイディアを出し合っても問題解決にはつながりません。カテゴリーごとにリストアップしてアイディアを出していくといったように、ある一定のルールの元で、発想を展開させることが大切です。

【work２　アイディアを出すためのワーク③】
練習したエクスカーションの手法を用いて新しいテーマの問題解決をしたいと思います。

●テーマ「誰もが暮らしやすい街にする」
説明を受けたコペンハーゲンの例のような新しいアイディアを発想し、実行することはできるでしょうか。話し合いではとても活発に意見が飛び交っていました。問題解決の手法にまだ慣れない生徒たちは、独創的なカテゴリーを思い付いてもそこから発想を広げることに苦労している様子でした。そのアイディアが必要とされるものか、需要はあるのか、それに加えて自分たちがやってみたいと思うことができる内容なのかも大切なポイントです。
この取り組みは引き続き課題として、Google Classroom に提出することになりました。

2022 年 4 月 26 日 SSR(高 2)授業「アイディアを出すためのワーク/さくらんぼ分割法」(短縮授業)

資料：ワークシート 1-2（前回の続き）、課題シート「分析モード発想法の実践」

前回までの講座で、問題解決をするためのエクスカーションという手法を実践し、いくつかのアイディアを考えてきました。最初は慣れなくても、いくつか実践していくと、少しずつ様々な場面で活用できるようになります。そして今日は、発想モードであったエクスカーションとは違い、どちらかというと日本では馴染みやすい方法でもある分析モードの「さくらんぼ分割法」という手法を用いて問題解決を実践してみようと思います。

●さくらんぼ分割法

さくらんぼ分割法（Cherry split）

1　課題を簡潔に 2 語に分割
2　表現した 2 語について、それぞれ属性（≒特徴）を考え、2 つの属性に分割
3　それぞれの属性を、さらに 2 つの属性に分割
　これを十分と思うまで繰り返す
4　分割してできたたくさんの属性から、好きなように組み合わせて新しいアイディアを作る

＜例題＞多くの人がスマートフォンなどのタブレットを使用しています。さくらんぼ分割法を使って、新しい ICT 機器を作ってみましょう。

何も知らないことが自由な発想を生み出すという考えは、今は否定されています。実際には特定の領域でアイディアを出す場合には、その領域についての深い知識が必要で、その知識の上に発想が生まれるものです。この手法のよいところは、先入観で排除していたことや見逃しがちなものを拾っていけること、また気軽に使える便利な方法でもあります。数学で学ぶ「場合分け」の考え方と通じるものがあります。

2022年5月１０日SSR(高2)授業「アイディアを出すためのワーク/SDGs#11」

資料：ワークシート 1-2（前回の続き）、1-３、パワーポイント資料「Sustainable Development Goals」

前回の講座で、分析モードの「さくらんぼ分割法」という手法を用いて問題解決を実践してみようと試みました。今日は、前半はその続き、そして後半は改めてこれから取り組む「まちづくり」というテーマの基本となるSDGs＃11「住み続けられるまちづくりを」について振り返ります。

●「新しいICT機器」を発想する

さくらんぼ分割法を用いてアイディアは導き出せたでしょうか。発表してくれた生徒たちの例を紹介します。

「音楽が聴けるメガネ」
IT機器といえば…
スマホ→音楽プレーヤー→イヤホン
ノートパソコン→折り畳み→メガネ

「SDGsを考えたメッセージ発信機器」
IT機器といえば…
最先端→アメリカ→ガーファ
AI→メッセージ

「充電不要な携帯電話」
IT機器といえば…
電気→充電必要
最先端→省エネ

「自動的に救急車を呼ぶスマートウォッチ」
スマートウォッチといえば…
かしこい→情報処理→スマホ→メッセージの送信
様々な機能→健康管理→心拍数

実際にあればおもしろいという発想や、実現不可能と思われるものからすぐにでも商品化しそうというものまで生徒たちの発想は豊かでした。２つの手法を用いて問題解決の方法を探ることに取り組んでみましたが、それらの方法においてお互いに意見や案を持ち寄ることはとても大切です。さらに新しい改善策を導く可能性が広がることを実感しました。

●SDGs＃11

１年生のSSS講座でも学んだ復習となりますが、SDGsの17の目標の１つ「＃11住み続けられるまちづくりを」をこれから中心に取り組んで行くため、改めて振り返ります。

SDGsは国際間で地球規模の問題を共通の問題と認識し、協力して解決するために制定されています。戦争、冷戦、そういった過去があり、現在ではグローバル化が加速していく中で、世界が同じ目標を持ちまとまったことはとても良いことです。ただし、MDGsでほぼ全ての目標で成果が見られたものの、根強く残る男女不平等、極度の貧困など、「格差」は広がり最も脆弱な人びとが社会の犠牲となっている事実があります。そこでSDGsでは誰

一人取り残さないということが一番の課題となっています。

●SDGs#11 の 7 つのターゲット

【SDGs#11 への理解を深める】

将来、都市における生活人口が大幅に増加すると予想される中、まちづくりは私たちの生活とも密接に関係します。様々な社会問題の発生に備えて設定されている 7 つのターゲットを理解し、以下のことを書き出してみました。

疑問

電車やバスのバリアフリーが進んでいない/障害のある人の立場に立っていない/ホームや踏み切りでの事故絶えない

うまくいっている事例は？

高齢者の乗り合いバスサービスの普及/TAXI の活用が広がっている/オンデマンドサービス/欧米でよく見かける自動スロープなど公共交通のバリアフリー化

うまくいっていない事例は？

日本での都会と田舎の交通の利便性の格差/大隅半島をはじめ鉄道に代わる交通手段の乏しさ

改善策のアイディア

ストラスブールの交通政策は利便性を高めるだけではなく、街の美化、渋滞の解消、街の活性化にとどまらず環境汚染の解決につながっている

今後は自分でも発想を広げて考えてみよう！

7 つのターゲットに対して、その問題を解決するために日本を含めた各地でどのような取り組みがされているかも、書籍や京都市のホームページを参照して理解を深めました。

●参考にした文献等

『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』ヴァンソン藤井由美、宇都宮浄人（学芸出版社、2016）

→完全超低層車両、郊外住居者のための大型パークアンドライドの整備、パーキング料金と引き換えに 1 台に同乗している 7 人分までの LRT 往復切符無料配布

→議会のオープンハウス、公聴会、ワークショップなどの頻繁な地域開催、コンセルタシ

オンでアーバンデザイナーに意見届ける
『未来を創る京都文化遺産継承プランの策定』
→文化遺産の保護、保っていくための努力の強化
『環境先進国ドイツの今』松田雅央（学芸出版社、２００４年）
→都市中心部にある屋上緑地である地下駐車場のチューリップ公園
『地域・都市の社会学―実感から問いを深める理論と方法』平井太郎ら（有斐閣、2022年）
→都市での人のつながりの希薄化におけるセーフティネットの設計と補償

次回の講座では、SDGs#11 のターゲットを理解したうえで、様々な事例と自分の住んでいるまちでの様子を比べてより深く考察してみようと思います。

2022年5月31日SSR(高2)授業「まちづくりに関して書かれた専門的な本を読んでみましょう」

資料：ワークシート1-4、プレゼンテーション資料「CHAPTER 8」

まちづくりに関して書かれた専門書『地域・都市の社会学』を精読し、その内容を章ごとに輪番制で生徒たちが報告していきます。生徒は担当箇所についてまとめ、プレゼンテーションすることで内容を共有し、自分たちの提示するディスカッショントピックについて意見を出し合います。一冊の本の内容を共有し、質疑応答でわからない点などを質問し、皆で考えたり、意見を述べ合うことでさらに理解を深めていく取り組みです。

皆で読み、ディスカッションすることは、自分だけの理解で終わらず、抜け落ちた部分も拾うことができるといったメリットに加えて、新しい気付き、より詳細な理解を得られるという点でも効果的です。

●課題図書にについて

『地域・都市の社会学 -- 実感から問いを深める理論と方法』(2022年4月有斐閣)

平井 太郎，松尾 浩一郎，山口 恵子／著

「半径1キロから社会学しよう」というキャッチフレーズにあるように、身近な地域の生活に触れ、都市の問題を知ることから、社会学の世界へ入っていくことを提案しています。テーマは、身近な地域の生活から都市の問題、都市問題や地域住民の課題、人と人との距離、排除や貧困など、具体的な社会問題など

【目次】

第Ⅰ部　地域を実感する
　第1章　地域と都市はどのように実感されるか――「距離」への敏感さ
　第2章　地域・都市はどのように形づくられたか――人びとの空間的共存を捉える視点
　第3章　空間と場所の問い方――マクロ・ミクロからのアプローチ
第Ⅱ部　地域に集まる力／世界に広がる力
　第4章　グローバル化とどのように向き合うのか―再生産領域への労働移動から考える
　第5章　ナショナルなものと地域･都市――〈中心〉と〈周辺〉，その先にあるもの
　第6章　ローカル･トラックとは何か――進学･就職をめぐる理想と現実

第Ⅲ部　地域・都市で生まれる社会
　第７章　都市の公共空間――人の集まる場所のしくみ
　第８章　都市の不平等はどのように進行しているのか――異質性と排除が結びつくとき
　第９章　コミュニティはどこから来てどこへ行くのか――語りのダイナミズム
第Ⅳ部　地域・都市のこれから
　第 10 章　「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるか――ここに生きる意味の承認
　第 11 章　地域・都市はどこへ行くべきか――地域への問いと社会学的想像力
　第 12 章　創造と継承――都市の未来，都市の歴史

●適切な発表のために

１ハンドアウトを用意　・工夫しつつ内容のあるものに
　・キーワードだけでも文章ばかりでも NG、後で見て振り返りやすいもの

２引用の際の注意　・自分の言葉でまとめるのは NG、内容をそのまま「　」(p.　) といった形で抜き出す
　・他の書籍からの引用は著者『タイトル』(出版社、発行年)、p.　と適切な形でしましょう

●まとめの例

教員２人ともがそれぞれ第１章と第８章を読み、一例としてまとめました。その発表を聞き、自分たちの取り組みの参考に役立てましょう。帖佐教諭による第１章です。

第１章　　地域・都市はどう実感されるかー「距離」への敏感さ

１　地域と都市の実感

「距離」とは何か？

・「通勤・通学の際、ごく近い『距離』にある乗り合わせた人びとと、言葉を交わしたり耳を傾けたりすることはあまりない。孤独感／閉塞感を現代都市固有の感覚とした」(p.　5。)

・「人びとが (中略) 閉じ込められた感覚を覚えながら、どんなふうにコミュニケーションをしているのかに目を向けようとしていた。まさに『コンタクトゾーン』であり『空間的共存の作法』の模索といえる」(同上。)

・「互いの『距離』に関する暗黙の約束事は、明確に指示・掲示されているわけでもないのに、おのずと生まれ共有される。(中略) それもまた『鉄道に乗る』そして『都市を生きる』経験だといえる。」(p.6.)

２　地域と都市の実感「書く」

・「『地域と都市』を当たり前のものとせず、みずからの目や耳でもう一度実感し組み立てなおす作業」「近さと遠さの組み合わせが、『地域や都市』を実感するのに欠かせない。」(p.11。)　　つづく

ここでは、内容の要約をわかりやすく書き出し、シンプルにまとめています。第１章では、社会学とは何か、社会の問題と個人の問題を分け、実際に起こっている出来事やそれに関わ

る様々な要素をわかりやすく解説し、学問によって考察・検証・解決へという順序でまとめられています。自分の住んでいるまち、または住んでみたいまちを自分なりの方法で描写してみると新しい見方ができるかもしれません。まとめ方はそれぞれですが、誰が後から読んでも内容を把握できるものであることが大切です。

次は、城村教諭によってまた別の方法でまとめられた第８章の発表です。

スライドを用意し、画像や表を交えて、そして関連する書籍を紹介しながらの発表でした。この章では、都市の特徴を、異質性、魅力、交差性などの観点から分析し、近年の都市の不平等についてまとめられています。レジリエンスがまちの不平等と大きく関わっていることから、いかにして異質な他者とのつながりに頑健さ装備するか、富が商品として現れないまちなど、普段は目に見えない部分に目を向けて問題の解決策を考案しています。課題や、課題に対する処方箋として参考に関連図書を発表者の視点から紹介し、聞き手がより興味、関心を持つことができる、オリジナリティ、工夫がありました。

次回は、この「都市の不平等」について、ディスカッショントピックをいくつか設定してクラスで意見を出し合い、話し合います。

2022 年 6 月 7 日 SSR(高 2)授業 ディスカッショントピック「都市の不平等」

資料：ワークシート 1-5

『地域・都市の社会学』の第 8 章「都市の不平等はどのように進行しているのか」より、城村教諭によるプレゼンテーションがありました。今日は、そこからいくつかのディスカッショントピックについて話し合いました。各トピックでの生徒たちの意見をキーワードにして紹介します。

●ステータス・シンボルが「カプチーノ」であるようなライフスタイルを好むミドルクラスが、インナーエリアの都市再開発によって都心に回帰する現象について、良いと思う点、問題だと思う点はどのような点でしょうか。

良い点
地域の活力・価値・経済効果 UP
資産の安定
治安の回復
人口増
地域への愛着の芽生え

悪い点
弱者（ホームレース）の排除
分極化
不安の広まり

●ジェントリフィケーションが「資本の都市への回帰運動」であり、インナーエリアを新たに商品化する動きであると考えると、結局このような再開発によって得をする人はどのような人でしょうか。逆に、こうした動きによって、排除された人びとはどこに行くのでしょうか。

お金のある人、お金を儲けたい人、資本のある人だけが得をする社会が成り立ち、排除された人たちは行き場を失い、また別のスラムができるだけ

●（農村などと比べて、）都市生活の長所とはどのようなものでしょうか。前回の授業の内容を踏まえて、改めて考えてください。

利便性のよさ
お金さえあれば全て手に入る
良い意味でも悪い意味でも異質性の高い
常に進化する
田舎がいい？都会がいい？
顔見知りの安心感を求める人もいれば、他人と関りを持ちたくないという人も

●どのようにして，（都市における）異質な他者とのつながりに頑健さ（レジリエンス）を装備したらよいと考えますか。

他者を受け入れる教育
他者とのつながりに目を向ける地域交流
他者の発言に否定的な態度を取らないコミュニケーション
意思決定手段の見直し
読書→異質な他者との対話

●富が商品として現れる街は、「豊か」なのでしょうか。「豊かでない」のでしょうか。どのようにして，富が商品として現れない街をつくることができると考えますか。

貧富で生活の質の差があることは豊かか
お金を生む富は結局そこにある自然な豊かさ（そこにある富）を縮小させていく
（例えば、飲料水、空気、パブリックスペース、文化的価値など）
完全な商品化ではないバランス、融合が必要
人が選ばれる側ではなく人が選択のできるまちこそ「豊か」ではないか
人を遠ざける壁を作らない

●どのようにして，街の未来について，真に有効な問題解決策を考案・策定するために,意思決定の手続きを、洗練をすればよいと思いますか。

広く意見を取り込む仕組み作り
考える機会を多く作る学び
興味を持つ機会を増やす社会を創る

まちづくりについて学ぶ上で、ヒントになるキーワードや参考になる思考がたくさん詰まった本です。ディスカッションでは、考えたこともない視点を発見したことと思います。ここで考えて話し合ったことは念頭に置いておきましょう。残りの一学期の講座では、皆さんがそれぞれ本を読み進め、２人の教員が行ったように各グループがまとめて発表します。自分が興味を持ったチャプターを申し出て、分担を決めます。それぞれのチャプターごとのグループが決定すると、プレゼンテーションの日程を確認、段取りを整理し、グループ内で役割分担をしてスケジュールを組みます。

【プレゼンテーションの日程】
６月１４日・６月２１日・７月５日
（一学期最終）

2022 年 6 月 14 日 SSR(高 2)授業 『地域・都市の社会学』章ごとのプレゼンテーション 1

資料：生徒発表資料/ディスカッショントピックプリント

『地域・都市の社会学』を読み、グループごとに各章を担当してまとめたものについて、今日から生徒たちがプレゼンテーションを行い、ディスカッショントピックについて話し合います。発表の際の資料と強調されていた要点、そして聞いていた生徒たちも含めてディスカッションになったトピックを紹介します。

●第 7 章　利の公共空間――人の集まる場所のしくみ

『地域・都市の社会学』

第7章 都市の公共空間

1. 第7章のこと、でないこと

1930年代は、26番地では事故や殺人が頻発され劇場や娯楽場ではほとんど灯が消えた。3年後の29日にはおおむね廃棄処されは安全機関ももとのように動き始め日常が取り戻されていった。後所の人々はこの事件から非日常を体験した。また29日東京の戒厳令のが政治的社会的権限人ではなく経済的消費的個別人だけで為ったことから私たちが公共空間を必要としていることが見出された。

2. 公共空間とは何か

・空間を分けること

自身の生活の場をすべて所有し独占的に使用することは不可能。

空間を分けることは、都市生活の中で生体構造のようなマクロなスケールの問題であり、そうして生成された空間の中で個人同士の共存というミクロなスケールの問題でもある。

これらの観点からふつうの場面に注目できる

① 住宅の場

一般的には住宅

特徴

一人一人に居場所を割り当てる

プライベートな空間、自分が許すかぎりしか入れず他人は追い出される。そうすることによってお互いを侵すことなく空間をシェアしている

② 労働の場

仕事とか共通点

日々通う場所があり一人一人にそれぞれの持ち場が与えられている。

生きるために必要である

相違点

自分の居場所にも他者の目がある。また自分の居場所に同僚や仕事相手がいれば、→プライベートな要素がない

③ 公共空間

特徴

個人の居場所が与えられることもあるが公的(誰もプライベートに占有できない

生活必需度は低い

生活を拡充し豊かにするための場所である

不特定多数の人が常に流動する非安定と不確定な空間

・公共空間の分け合い方

都市空間での共存にはハードックス・流動、非特edがある

都市には知らない人がたくさんいる

3. 他の公共空間を観察する

実際の都市ではどのような公共空間があるのか見ていこうじゃないか。

「道、広場」

「道」という空間の特徴は誰でも通ってもらうと保証されないこと

公共空間の原型の「道」から展開して、「広場」のような不特定多数の人々が集まる場面に特化した空間がストリート・ライフの原点へと繋がる。

モータリゼーション(移動手段)が進行した現代都市では、「道」を交通以外の用途に使うことは難しくなっている。

「公園」

公園は道路とは異なり、人びとが自由に集いやくつろぐオープン・スペース

シドニーの中心市街地にあるハイド・パークでは公園内に芝生やベンチ等があり、誰でも自由に使うことができる。(見ず知らずの人同士の対面や、同じ目的で集まることも)

シドニーパーク

公共空間は、不特定多数の目的あるなかでそれぞれのパフォーマンスをする集合のようなものである。誰もが舞台にたかることができ、観客になることができる。

ここには道路に面する商うんには「ターンイン」を、商売ならい実践には相手場所という関係が成り立つ。これをく見る－見られる関係という。

また、見られたいように見せる演出をするような場合は、観客の目や反応に対し自身位置に対応する。ここにはく見る－見られる－見せる関係がある。

4. 公共空間のプライバタイゼーション

今まで紹介した公共空間は個人や個人の集まりの方とその機能に焦点し解説をしてきたが、ここではかし視点を広げて、社会全体の中で公共空間についても考えていきます。そこで重要なキーワードはプライバタイゼーションです。プライバタイゼーションとは日本語でいうと民営化、私有化という意味を持ちます。

挙げられている例はニューヨークの都心に存在する

(ブライアンパーク)

- 東京ドームよりも一回り小さい敷地を持つ市立公園
- 誰でも自由に使えるベンチや椅子が置いてあり、カフェや売店などは完全私有化
- この公園の中央には噴水があり(教科書の写真の利用)

ロンドン

ローマのナヴォーナ広場

コペンハーゲンのコンパに通りでは、交通の場としてだけでなく社会生活の場としても盛んに利用されている。(自転車も自転車も歩行者も普通に通行しているが、同時にカフェやレストランも路上に開かれている。)

コンパに通り

コンパに通りでは、車両の進入を制限して路上での営業や社会活動を許容する心みを整える政策による、にぎわいとストリート・ライフの回復の成果が現れている。

- 空間には誰もいない、なぜなら、このときはこの公園の事情で多くの人々に閉鎖されているため、大切に管理されている
- だが、今ではあと数年できないが、この公園がオープンされる前は荒涼の極みだったそうだ(写真)
- 椅子やテーブルの位置・物理的な環境の整備・飲食の提供・来訪者のイベントの開催(2000年以降の状況は書きな改善)などといった工夫がされている。
- このような工夫がされたことによって、誰もが通ってしたくなるような魅力的な空間づくりをすることができた
- ここまでの工夫が可能だったのは公園の管理運営の枠組みが深に関わっている。
- 1960年以降、民間によるエリア開発およびマネジメントを許可するBID制度に基づいたプライアント・パーク・コーポレーションという組織による公園の管理運営がなされた。
- この組織は公園の管理だけではなく、周辺地域をまとめて戦略的な再開発を行った。
- このことによってその公園を魅力的な空間にするだけにはとどまらず、公園周辺の都市空間の価値を高めることに成功したのである。
- このようなBID制度による事業がプライバタイゼーションの流れを作り出し、都市の空間のあり方に大きなインパクトをもたらした。

5. 公共空間の私有化

プライバタイゼーション(民営化、私有化)の進行により公共の私有化ここでは公共の私有化と呼んでいる)が起こっている。

これにより公共の機能がもたらされている。ニューヨークの都心部がBID(ビジネス地区の有業者)によりこの公共空間が活動たちのみから組れたことが事例として挙げられる。

しかしそれらの進行は都市生活の有業に つながった歴史的経緯を持っていた。一緒にプライバタイゼーションが思いなは思い浮い。

ここからは公共空間の具体的な問題について触れていく。

- 道路、占有可能な公共空間

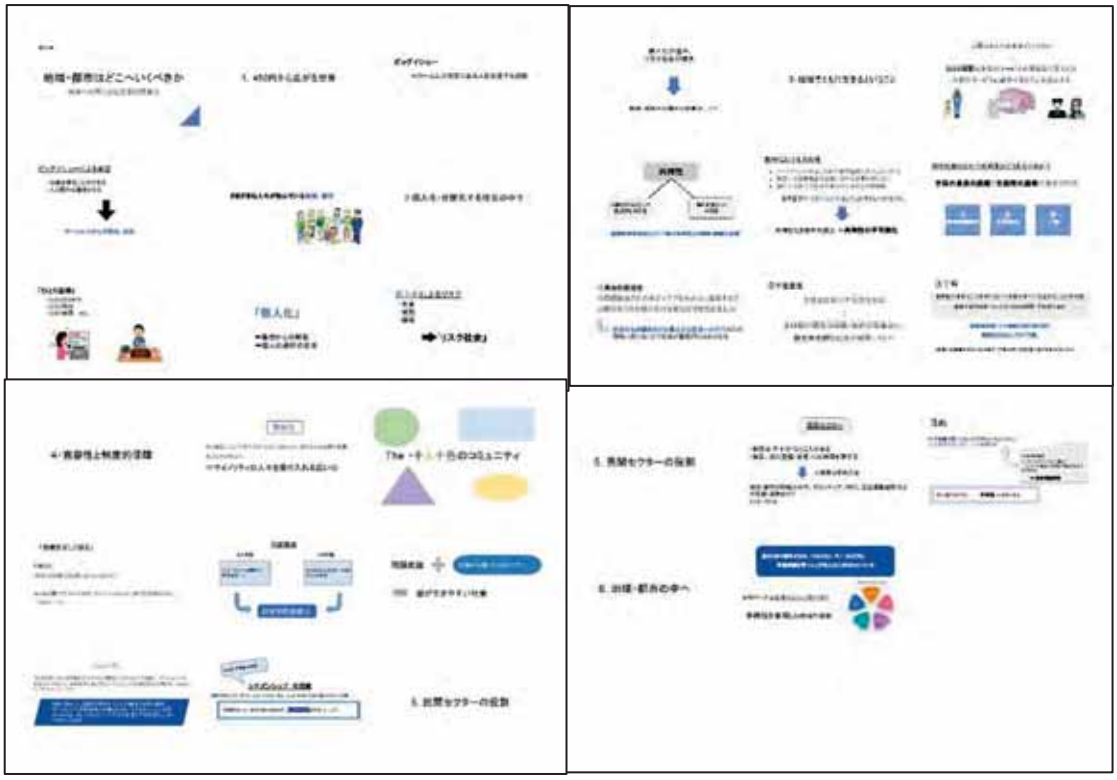
ここでは高層ビルの間に広がる公共空地と公道の境界が正角ターンによって区画　　ちされていることを例に挙げている。通行できる場所が所有者などの有空に占　　り使用可能な公共空間になっている。本来公共空地は使用や占有できる権利を持たないが、現実としてそういった事例が起きている。

- 避難所としての公共空間

「公共空間とは何か」
公共空間を観察し、様々な都市の事例からプライバタイゼーション（民営化、私物化）の問題を取り上げ、理想の公共空間を考える。

ハノイと他の都市では空間に対する考え方の違いがあっておもしろい
人間も生き物、生き物の距離感の違い
公共空間が具現化？
ＮＹでのＢＩＤ（ビジネス地区の発展計画）による公共空間の衰退

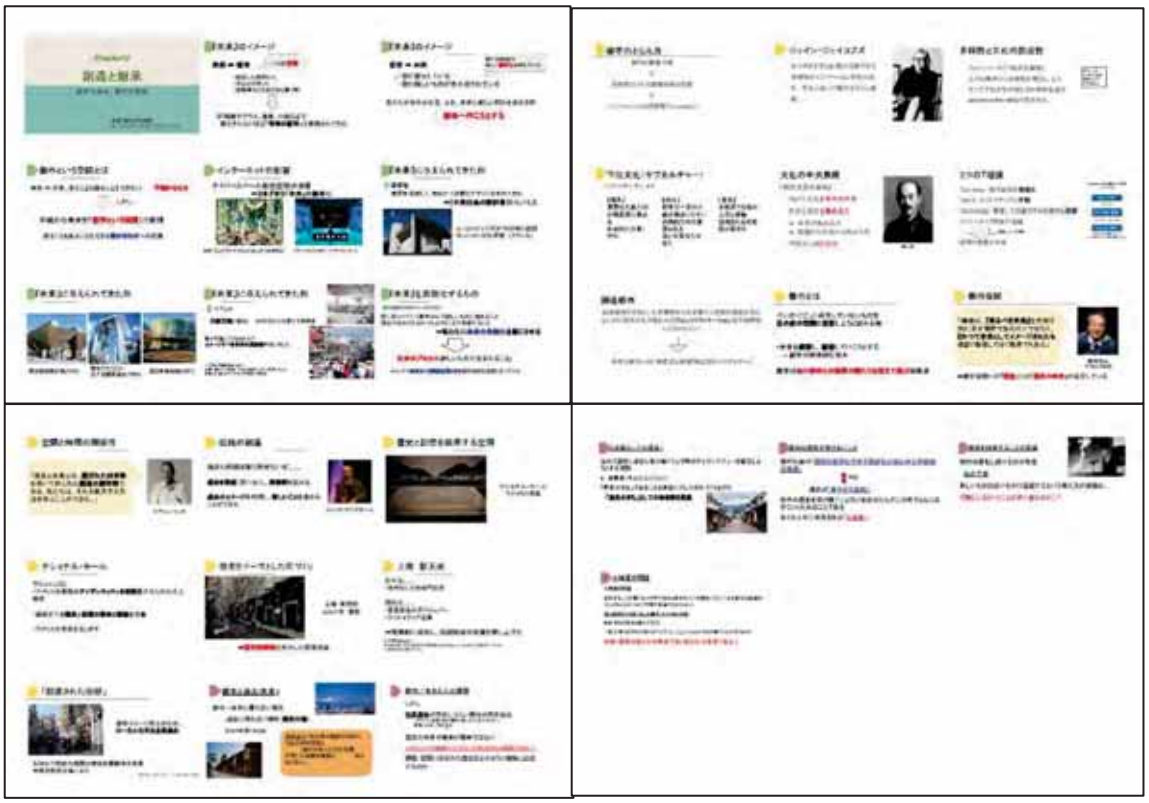
●第 11 章　地域・都市はどこへ行くべきか――地域への問いと社会学的想像力



「個人化・分断化」する社会の問題点
個人化によるリスク社会の増大で、地域でともに生きる大切さを考える。居心地の良いひとり空間も、多数のサービスの提供者に支えられてこそ成立している。現代社会の中で、主体の自由の保障と主体間の連携の両立がカギとなる。共に生きるためのよりよい仕組み作り。

中間集団（組合などの守る共同体）の衰退化
丸腰で大きな権力と向き合うリスクの進行
バックグランドの違う人たち、他者とのつながりを取り戻すことは街を捉えるうえで大事なポイント

●第 12 章　創造と継承――都市の未来，都市の歴史



「都市という空間とは」
都市の未来を考える、イメージすべき未来像を具現化するもの。常に変わっていく都市。都市を様々な方面からとらえる。経済、文化、創造、伝統、歴史、そこで生きる人々の課題。

より良い未来を創るための都市とは？
未来社会での都市の関係性は？
未来都市の具体的な形が次の万博で示されるのか
サイバースペース（仮想空間）でどこにいてもつながることができるが

2022 年 6 月 21 日 SSR(高 2)授業 『地域・都市の社会学』章ごとのプレゼンテーション 2

資料：生徒発表資料/ディスカッショントピックプリント

『地域・都市の社会学』を読み、グループごとに各章を担当してまとめたものについて、先週に引き続き生徒たちがプレゼンテーションを行い、ディスカッショントピックについて話し合います。資料、強調された要点、ディスカッションになったトピックを紹介します。

● 第 10 章 「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるか―ここに生きる意味の承認

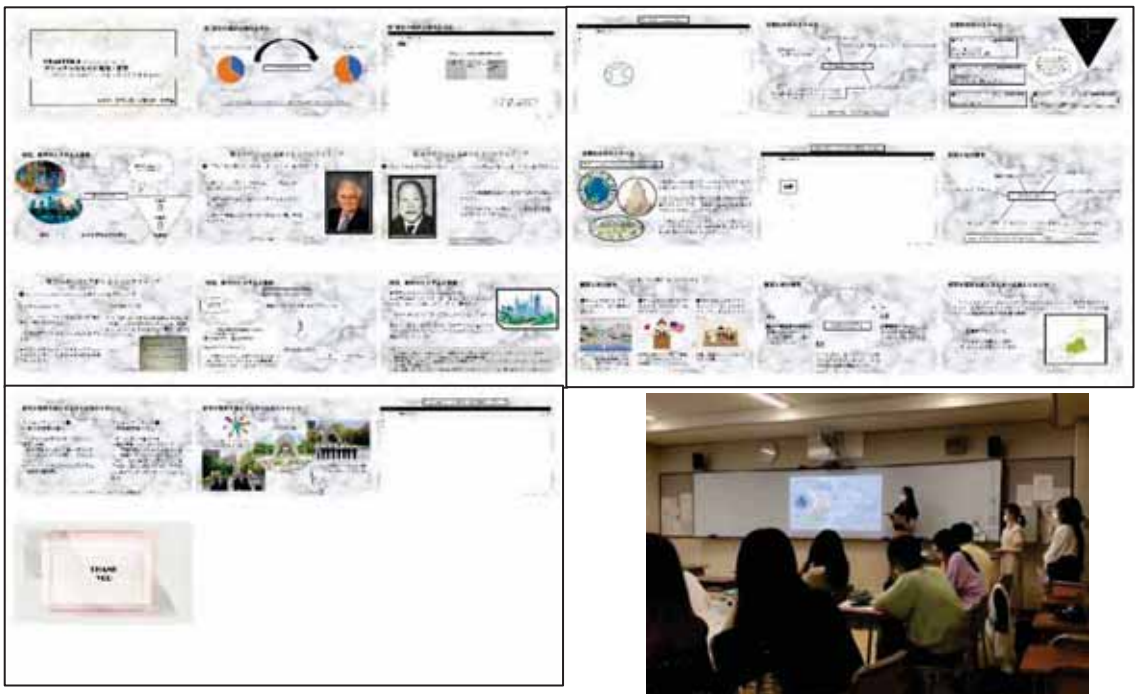
限界集落の真実 観察/仮説/検証

世代間の住み分け、再度実感する「集落」というフレームの存在を乗り越える。諦めなどから誇りの空

洞化が起こり、誇りの再建が求められている。集落の「意味」「アイデンティティ」の承認はどうもたらされ、人口減少をどう乗り越えていくのか。決して経済面だけではない、互いに配慮し譲歩できる「主体性」の変換により、承認の連鎖反応が起きる。

集落での地元学、都市農村交流、ワークショップなどの開催でそこに暮らす意味を改めて感じ、異質な人びとの知見を取り入れることでも変化

●第５章　ナショナルなものと地域･都市――〈中心〉と〈周辺〉，その先にあるもの



私たちの選択は誰のもの？何かによって強いられている？都市の持つ力を理解する。都市構造を理解するモデルとしての空間的共存のスケール、スケールからわかる共存と格差の意味。国家の意味。国家と都市の関係性。

都市が国家を超えるとき、「ヒロシマ」を例に
第二次世界大戦後と平和と司法の成立の２つのターニングポイント
恒久平和への努力の義務付け、そして独自の外交
平和行政により海外都市との関係を築く

●第３章　空間と場所の問い方――マクロ・ミクロからのアプローチ

「虫の目から」人はどう生きているのか、どう空間を捉えているのか。「鳥の目から」都市空間を可視化する。社会地図から空間的な特徴を考え、課題や発見が見えてくる。「表象の空間」として具体的な場所の１つ温泉場を、そこでの人の生き方から日常的実践の場として読み解く。かつての代々木公園のイラン人の集まりを例に、都市のコンタクトゾーンの意義。支援すべき人のリアリティが見えてくる。

人びとは何を考えてどう生きているのか
現代社会で何が起こっているのか知ること
空間や場所は、その都市の特徴や問題が見え、そこに住む人たちの求めているものを見つけられる

【課題】

改めてクラスでのディスカッションをふまえて、Google Classroom に教員が挙げるディスカッショントピックに対して自分の意見、プレゼンテーションを聞いてわかったことなどをまとめます。

それぞれの章の考察では、生徒たちはそれぞれ違った意見も持っていますが、それぞれの意見、その背後の価値観も尊重し合ってディスカッションを進めている様子が大変印象深いです。